

アート散策

▷▷43◁◁

亀井 幸子

県立近代美術館

係長

「みつぼしこどもえん」
(徳島市)の3歳児クラス
の園児21人が6月30日、か
わいいマスクを着けて見学
に来てくれた。この日が美
術館デビューである。

小さな子どもに美術は難
しいのではと思われるかも
しれないが、幼児の頃にし
かできない見方や楽しみ方
はある。展示室で、子ども
たちは瞳を輝かせ、気にな
る作品の前で立ち止まって
何かをつぶやいたり、作品
のポーズをまねたりする。
密を避けるために5、6
人のチームをつくって鑑賞
した。一つの作品をチーム
の友達と一緒に眺めている
と、いろいろなことが見え

てきて、どんどん想像が膨
らんでいく。

唐仁原希の作品〈過ぎ去
りし日の思い出〉の前で
も、子どもたちは、この不思
議な作品世界にすーっと入
り込む。「チョウの羽は魔女
に付けられた…」「この子
は部屋から出られるの?」「
「お服は着ないのかな?」「
「お風呂は?」「ご飯は?」

「ヒトチョウヒョウ」と
いう名前を考えて、どう鳴
くのかと考えていたチーム
もあった。園に帰った後
も、子どもたちは美術館で
見た作品のことを楽しそう
に話していたそうだ。
鑑賞活動で大切なのは、
一つの正解を求めることで
はなく、子ども一人一人が

園児、瞳輝かせ初鑑賞

どう感じるかということ。
子どもが自分の思いを言葉
でうまく伝えられない時
も、その身ぶりや表情から
読み取り、共感的に受け止
めていきたい。



同園の井上憲哉先生は
「3歳から繰り返し美術館
に来て本物の作品に出会う
ことで、普段の生活では得
られない感性が伸びてい
る」と効果を実感する。ま

た、自分の発言を友達や大
人に認めてもらうことで自
尊感情が育っているとい
う。対話しながら鑑賞する
経験を積むことで、共に学
び合い、「コミュニケーション
力も培う。」

「園児たちは社会で必要
になるであろう答えのない
問いを考え続ける力を身に
付けていると思う。コロナ
禍の状況で園外に連れ出す
ことにはリスクを伴うが、
このような時だからこそ美
術館に連れてきたかった」と
意義を強調した。

同園では3歳児クラスに
先立ち、4、5歳児クラス
の園児も見学に来てくれ
た。見学の実施や安全対策
については何度も協議し、
手指の消毒、マスク着用の
ほか、チーム活動で密にな
らないよう配慮した。

次回の見学予定は8月。
新型コロナウイルスの感染
が収束に向かい、子どもた
ちが安心して美術館に來ら
れることを願わずにはいら
れない。

唐仁原希の「過ぎ去りし日の思い出」を鑑賞する
園児たち。不思議な作品世界に入り込んだ。6
月、徳島県立近代美術館